

質問者 渡 邊 直 樹 議員

通告順 1

質問事項 1	木質バイオマス事業と福祉施設への熱供給計画について	質問の相手	町長
<p>[質問要旨]</p> <p>本町は、平成19年度に策定した「津別町バイオマスタウン構想」に基づき、木質ペレット製造施設の建設や、公共施設への木質ペレットボイラーやストーブの導入など、木質バイオマスの活用を推進しています。</p> <p>また、木質バイオマスを地域資源として活用し、資源、エネルギー、経済の持続的な地域内循環の仕組みづくりである「地域内エコシステム」の構築の取り組みを進め、「ウッドロスマルシェ」として未利用材の受け入れ事業を行っています。</p> <p>貴重な木材資源の有効活用が進む一方で、推進には大きなエネルギー需要が見込まれる計画も含まれることから、生産（供給）拡大が急がれているようにも感じられ、当初の理念である「地域内循環の仕組み」の観点から次の点について伺います。</p> <p>① 木質バイオマス事業の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウッドロスマルシェでの受入材はどの程度あるのか。また、当初見込みとの比較については。 ・ 木質ペレット、チップを製造する原料に占める、再生材・未利用材の割合はどの程度であるか。 ・ 木質ペレット、チップの原料となる木材資源に占める、町内で発生した原材料の割合はどの程度か。 <p>② 木質バイオマスボイラー設置の西町団地の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西町団地居住者の光熱費負担はどの程度か。また、負担軽減としてどの程度助成しているのか。 ・ 町内では西町団地が唯一の熱供給施設を設置した公営住宅となるが、設置することとなった経緯は。また、10年が経過するが設置した効果等の検証はされているのか。 			

③ 3 福祉施設（達美地区）への熱供給計画の現状

- ・ 計画当初から既存 2 施設への導入は確定していなかったと記憶しているが、現状を踏まえ協議の進め方に問題はなかったのか。
- ・ 既存施設との、導入のための施設整備や改修の負担割合についての協議は、どのように進めてきたのか。
- ・ 既存の福祉施設側から見た導入メリットについては、どのように考えているのか。
- ・ 熱供給（エネルギーセンター）の実施計画において、ボイラー規模の変更や確定はいつごろまで可能なのか。

④ 「津別町バイオマスタウン構想」の展望について

- ・ 木質ペレット、チップの推進に際して、販売価格を灯油（化石燃料）との価格に対抗するため、森林環境譲与税を活用することは、市場経済の観点から慎重であるべきと考えるが見解については。
- ・ 木質バイオマスセンターを令和 5 年に建設し、チップ製造、活用促進を進めているが、来年度からの事業で貯蔵棟及び原木置き場の増設で多額の予算計上があり、木質バイオマス事業の拡大や増産体制を早急な判断で進めているようにも感じるが、町全体の財政負担や原料（林産材等）不足の懸念はないのか。

質問者 山内 彬 議員

通告順2

質問事項 1	木質バイオマス地域熱供給事業について	質問の 相手	町長
<p>[質問要旨]</p> <p>当該事業は達美地区に建設予定の特別養護老人ホーム等の福祉施設に熱供給するための木質バイオマスエネルギーセンターの建設を令和8年度から令和10年度までの3年の継続費事業で進めようとしておりますが、次の点につきまして伺います。</p> <p>① 当該建設事業計画の概要及び概算事業費と財源の見込みはどのようになっているのか。</p> <p>② 熱供給センターの経営をどのように計画しているか。また、収支計画は、どのような試算を見込んでいるのか。</p> <p>③ 当該事業についての町の費用対効果を、どのように考えているのか。</p> <p>④ 当該事業の進め方について、町政方針でデザインビルド方式により進めたいと述べているがその根拠は。</p>			

質問者 山内 彬 議員

通告順2

質問事項 2	道の駅あいおいについて	質問の 相手	町長
<p>[質問要旨]</p> <p>相生総合交流ターミナル施設(道の駅あいおい)は、株式会社相生振興公社を指定管理者とする期間を令和8年3月31日に終了させ、翌4月1日からの5年間を株式会社フジタコーポレーションを指定管理者として指定することとなりましたが、次の点について伺います。</p> <p>① 指定管理者と町で交わされる指定管理基本協定書及び年度協定書の内容についての協議はどのように進んでいるのか。</p> <p>② (株)相生振興公社は、今後どのようにするのか。</p> <p>③ クマヤキの商標権については、今後どのように取り扱われるのか。</p>			

質問者 山田英孝議員

通告順3

質問事項 1	持続可能な自治会活動への支援について	質問の 相手	町長
<p>[質問要旨]</p> <p>津別町では、人口減少・高齢化が進む中で、住民と行政の間のつなぎ役や、地域の安全・福祉・防災等の基盤として自治会活動の重要度は増していますが、会員数の減少や役員の担い手不足などで地域コミュニティの維持が難しくなる地域も出てくること懸念されます。</p> <p>第6次津別町総合計画の中では、「行政活動、自治会活動や官民一体の協働事業の在り方も新たな局面を迎えています。時代に即したそれぞれの活動等の在り方を研究・検討していきます」と、行政活動、自治会活動の見直しの必要性について言及しています。</p> <p>今後も人口減少が進む中で、地域住民同士の支え合いの意識の醸成や、災害対応、生活環境の維持などの分野における自治会との協働を更に推し進めていく必要があると考えますが、次の点について伺います。</p> <p>① 自治会活動の現状把握をどのように捉えているか。(単位自治会の会員数、役員の担い手不足、合併や活動状況など)</p> <p>② 行政と自治会との協働の必要性をどのように認識しているか。</p> <p>③ 自治会と行政の橋渡し役を担う地域担当連絡員制度の現状と課題はどのように考えているか。</p> <p>④ 自治会活動費に対する財政支援の現状と拡充の考えは。</p>			

質問者 篠原 眞稚子 議員

通告順4

質問事項 1	小・中学校をとおした教育の充実について	質問の 相手	教育長
<p>[質問要旨]</p> <p>子どもたちが小学校から中学校への進学に際し新しい環境での学習や生活に不適合を起こす、いわゆる「中1ギャップ」と呼ばれる現象があり、このことは文科省の各種調査でも明らかになっています。</p> <p>本町ではこの課題について、どのように対処しようと考えているのか、次の点について伺います。</p> <p>① オホーツク管内で広がっていると言われる中学校の教員が小学校に出向いて授業する「乗り入れ授業」は効果があるようだが、このことについてどのように考えているか。</p> <p>② 教育行政方針で述べられた「小中連携推進計画」について、この計画に基づき取り組む具体的な内容と、期待される効果はどのようなものか。</p>			